

令和3年度

大学生の力を活用した集落復興支援事業

実態調査 業務実施報告書

桜美林大学 ツアープランニング研究室 福来たれ福島

目次

1. はじめに-----	3
2. 調査目的-----	3
3. 高槻集落概要-----	3
4. 活動状況-----	5
5. 集落の現状-----	7
6. 調査結果-----	7
7. 活性化案-----	14
8. 最後に-----	25
9. 参考文献-----	26

1. はじめに

私たち桜美林大学ツアープランニング研究室は観光系のゼミとして観光の起きる動機や観光に必要な要素、観光が地域に与える効果などについて研究している。今回の大学生の力を活用した集落復興支援事業にはゼミ内の学生6名がグループを組み、普段私たちが学んでいる知識を衰退してしまった集落への力添えに活用できないかということで参加を決めた。本報告書は現地での調査内容とそこから考えた地域振興策を記したものである。

2. 調査目的

福島県では、過疎・中山間地域の集落の復興を目的に、大学生グループに集落の実態調査や活性化事業の提案等を委託している。活動を通して、地域の魅力発見や地域資源の活用方法を模索し、集落の活性化に向けた住民主体の取り組みを促進することを目的としている。

3. 高槻集落概要

私たち桜美林大学渡邊ゼミが今年度活動をおこなった福島県二本松市東和地区高槻の概要を記載する。

3-1 位置

福島県の北部に位置し、県都福島市と中核都市郡山市との中間に位置する福島県二本松市東和地区木幡に属する。(図1) 最寄駅は東北本線松川駅及び安達太良駅で集落からの所要時間は自家用車で15分、徒歩だと1時間半の距離である。

図1：高槻集落所在地と高槻集落地図

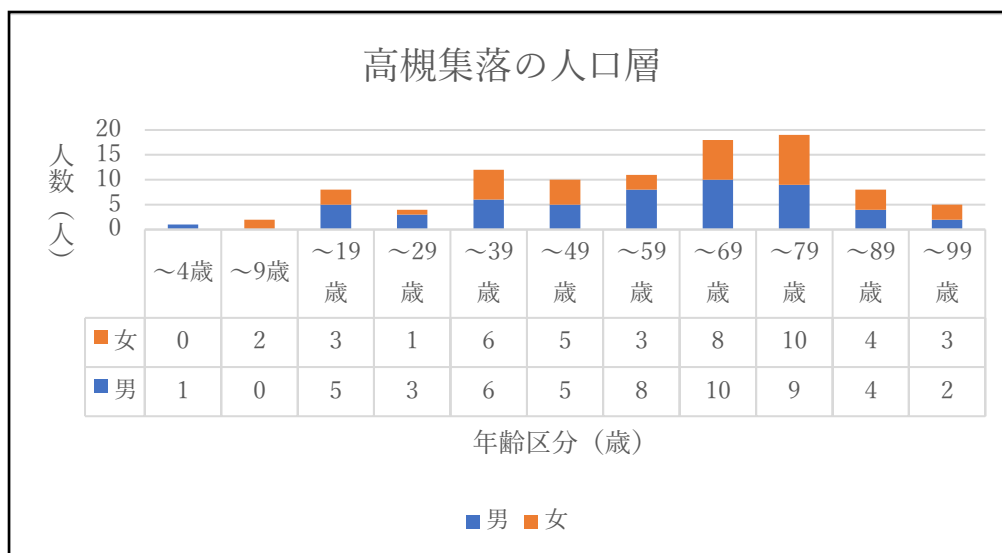


出所：福島県ホームページを基に筆者ら作成 <https://www.pref.fukushima.lg.jp/>

3-2 集落の人々

高槻の人口は 98 人と小規模な集落である。人口分布は詳細を下記のグラフにまとめてある。(図 2) また、アンケート回答者のうち 55 歳以上の人口は 59.2%と準限界集落¹に該当する。

図 2：高槻集落の人口と年代についてのグラフ



出所：東和支所からいただいたデータを基に筆者ら作成

3-3 産業

高槻集落は平成一桁台までは養蚕が盛んな集落であった。中山間地域の中にあって土地条件に恵まれないにもかかわらず集落こぞって養蚕を営み、里山の経済活性化を成し遂げたことが評価され、日本農林水産祭において天皇杯を拝受した。集落内には区民が崇拜する白鳥神社があり、ここでは全国的にも珍しい蚕を飼育する流れを演じる蚕飼舞がある。農村地域でありながら、これと言った特産品もなく、稲作を基幹作物としつつ、ネギや菊、エゴマなどの栽培を行っている。近年はワイン用のブドウの栽培も始まった。

空き家も生じてきており、移住者が移り住んできている。都市との交流や農業体験を推進するため、農家民宿を立ち上げている農家が5軒ある。

¹ 1 準限界集落の定義は 55 歳以上が半数を超えた集落である。

4. 活動状況

4-1 活動スケジュール

～12月	事前調査
12月10日	現地調査
12月後半	集落の問題点の洗い出し
1月	解決案の立案
2月	各種書類作成
2月19日	現地調査にて集落の方へのご提案
2月27日	活動報告会への参加

4-2 現地調査内容

- 集会所にて集落の方と顔合わせ、日程の確認

図3：農業体験（大根・白菜）の様子



出所：筆者ら撮影

- 収穫した大根と白菜を使ってゆず巻き、ゆず混ぜ作り
- 集落とその周辺地域の見学（木幡高槻集落～川俣町）
- ウッディハウスとうわにて入浴

図4：集落の方々と集会所にて情報交換会



出所：筆者ら撮影

- 農家民宿「いどぼた」にて夕食及び宿泊

図5：ねぎ加工工程の見学



出所：筆者ら撮影

- 作ったゆず巻きの試食
- 正月飾りのしめ縄づくり体験
- 代表の武藤さん宅にて昼食
- 集落周辺施設の見学（ふくしま農家の夢ワイン・道の駅とうわ）

5. 集落の現状

現在は農業の衰退により、労働者は他産業へ就業しておりほとんどが二種兼業農家である。空き家や耕作放棄地が増えており、維持管理や景観上の問題、自然災害の発生の心配もある。高齢化も進んでいることから集落機能の低下がうかがえる。さらには介護の形態も老老介護であり利便性を求める声も上がっている。地域の文化財である神楽も後継者不足で消滅寸前という危機に陥っている。神楽はすぐに覚えられるものではなく、幼い頃から慣れ親しみ体に染み付いているものだそうで、継承方法の模索が必要である。また、新型コロナウイルスの影響もあり作った野菜を売る先が少なくなっており収入の減少になっている。新型コロナウイルスが発生する前は海外からの留学生やインバウンド客などを農家民宿で受け入れることもあったようだが、現在はそれも望めない状況に陥っている。新型コロナウイルスの状況と高齢化が相まって集落同士や住民同士の関わりも希薄になっており、活力の低下も見受けられる状況である。高槻集落の方は自らが育ってきた集落を大切にしており、今後遺していく集落がどうになってしまうのか大きな不安を抱いており、なんとか集落を復興させたいという思いを強く持っている。

6. 調査結果

6-1 地域資源

① 住民の人々

私たちは、はじめて福島県東和地区高槻集落に足を運んだ。高槻集落の皆さんは、そんな私たちを温かく和やかな雰囲気ですぐに打ち解けることができた。

集落の皆さんの仲の良さも伺うことができた。本プロジェクトの集落代表者である武藤さんをはじめ、陽気で気さくな人が多く、常に集会所では笑い声が絶えなかった印象だ。楽しい雰囲気はありながら、高槻集落の衰退を阻止すべく、施策を一所懸命に取り組みたいという想いも感じ、一人一人が集落を大事に思っていることが分かった。また、野菜など生活に必要なものを自分で作り出す自給自足の生活をしている。高齢化が進む中で自給自足ができる生活力は素晴らしい。

現地調査の2日間、集落の皆さんとの触れ合いはとても楽しく、まるで祖父母の家に遊びに来たかのような懐かしさや胸の高揚を感じることができる新鮮な時間だった。

② 野菜

集落の皆さんは自分の畑を持ち、季節に合わせて様々な野菜を育てている。大根、長ネギ、白菜など。農業の機械などは、住民同士で共有して使っている。各々が畑を持っているが、少しずつ干渉することで農業にも住民同士の繋がりを感じることが出来、そのように協力し合うことで美味しい野菜を育てているのではないかと思う。

また、野菜の美味しい食べ方も地域で伝承している。福島や北関東の郷土料理である柚子巻きははじめて食べたが、家でも簡単に作れそうでゆずの風味がたまらない。自分で採った野菜を自分で料理することで、食材のありがたみを改めて感じた。高槻集落での農業体験は非常に貴重で、都会暮らしをしている人にとっては非日常を感じるものである。

③ 自然・環境

集落に到着して最初に思ったことは、空気が澄んでいてとても気持ちが良いということだ。木が多く、建物や車が少ないため空気が綺麗で全く都会と異なる。

夕方には夕日が綺麗で、夜は星空が綺麗だ。息を飲むような高槻集落の景色は、日頃のストレスを解消する。森や林、車通りの少ない道、雑踏されていない集落は、流れる時間も緩やかだった。

夏には鈴虫が鳴き、冬は山に雪が被るなど、四季折々の景色が楽しめる。

④ 桑茶

高槻集落はかつて天皇杯をもらうほど養蚕が栄えていた。現在は衰退し、集落に数件しか無くなってしまったが、桑茶の製造は継続して行われている。桑茶は糖尿病予防、高血圧抑制、便秘改善など、その効能は計り知れない。また、現代の人に不足しがちな亜鉛やカルシウムなどのミネラルに富んでおり、食物繊維も多いと言われている。桑茶はまだ人々に浸透していないため、知名度を上げるために宣伝をし青汁にはない、飲みやすさを押し出すことで、興味を持った手にとったりする人が増えるのではないだろうか。

⑤ 民宿

現在東和地区には23件の民宿がある。私たちは民宿いどばたに宿泊した。民泊体験はなかなかできることではない。民宿ならではの体験が沢山できた。お母さんの手料理は品数が多くとても美味しかった。手作りワインは今まで飲んだワインの中で1番飲みやすく、帰りにお土産として買って帰るほどだった。集落のお話もたくさん聞くことができ、集落の皆さんのリアルな生活を知ることができた。

6-2 集落の抱える問題点

私たちが現地調査を通して感じた集落の問題点は

- 1, 高齢化及び人口減少
- 2, 神楽の後継者不足
- 3, 空き家問題
- 4, 畑のイノシシ被害
- 5, 民宿のなり手不足
- 6, 農作物の販売先の減少

以上の6つが挙げられる。現状と問題点について以下で述べる。

一つめに高齢化および人口減少である。現在集落の高齢化率は46.9%。若い人は小学生以下の子供が6人、中学生が2人、高校生2人となっている。このままでは集落機能が低下し、維持困難な集落になってしまう恐れがある。

二つめは神楽の後継者不足だ。高槻集落には全国的にも珍しい蚕を飼育する流れを演じる蚕飼舞がある。しかし神楽は小さい頃から親しみ受け継いでいくもので、習得は簡単なものではない。このままでは集落文化の保存継承が難しく、地域の活力の低下にも繋がってしまう。

三つめは空き家問題だ。現在高槻集落には3つの空き家がある。空き家があることで雑草などによる景観の悪化や不衛生な状態での異臭の発生、建物の倒壊のリスク、空き家の期間が長いほど資産価値が下がってしまう懸念、さらに人が住んでいる場合に比べて地域にもたらされる活気の低下や経済効果の減少が起きている。空き家に移住してくれる人を探るか、空き家の有効活用などの策を講じなければならない状況だ。

四つ目に畑のイノシシ被害だ。集落の畑はイノシシによって荒らされる被害に悩んでおり、栽培していた野菜が荒らされることで収穫できず収入が減少する恐れがある。集落で猟銃免許を持っている人はすくなく、有効な策を見つける必要がある。

五つ目は民宿のなり手不足だ。東和地区では東日本大震災の後に野菜から検出される放射能を減らすための大学研究員などを受け入れる過程で宿泊場所がなかったために始まったものであった。この動きが広がり現在は東和地区の農家民宿は約20件となっている。しかし実際は農家民宿を始めようという動きの際に民宿のなり手がおらず、高槻集落では農家民宿「田ん坊」の主人で高槻集落を引っ張っている武藤さんが同級生に声をかけて始めたものであった。このままでは農家民宿を営む方が皆高齢者ということで民宿の衰退の危機を迎えている。今後集落が続いても農家民宿のなり手がおらず、観光客の受け入れが困難になってしまう恐れがある。

六つ目に新型コロナウイルスの影響もあり農作物の販売先が減ってしまっていることだ。高槻集落の方は季節に合わせて多彩な農作物を栽培し、新しい作物の栽培にも精力的に挑戦をしている。しかし販売先がないことにより収入の減少や廃棄率の増加が懸念される。

6-3 課題解決テーマ

これらの挙げられた問題点の中から私たちの経験や知識を活かして解決につなげられるテーマがないかを探した。その結果、以下の3点のテーマを対策の方向性として選定した。

- ① 高槻集落のDX化
- ② 高槻集落へ観光に訪れる人の動機作り
- ③ 集落の農作物の価値向上と販路の拡大

上記3つの活性化案を検討にあたり、各課題解決テーマに対するSWOT分析を行った。それらの分析結果は次ページの通りである。

6-4 高槻集落の SWOT 分析

1. 高槻集落の DX 化について

内部要因(S:強み, W:弱み)

【強み】

- ・ 外部の人を受け入れられる住民性
- ・ 民宿の運営
- ・ 福島市の協力
- ・ 地域住民が持つ地元への知識の豊富さ
- ・ 若者にはない感覚、うまく使えば個性
- ・ シニアの動画発信は流行りやすく、高槻の住民性もあり話題になりやすい

【弱み】

- ・ SNS への遅れによる外部への情報発信力の弱さ
- ・ 高齢化からインターネットや SNS への疎さ
- ・ 発信できる情報の少なさ
- ・ 継続して SNS を住民のみで行うことの難しさ
- ・ 発信先が不明確
- ・ 住民たちが SNS への抵抗感

外部要因(O 機会, T 脅威)

【機会】

- ・ SNS の普及
- ・ 費用がかからない為チラシやポスターの宣伝より継続的に行える
- ・ IT 技術発達による情報発信や予約方法等の多様化
- ・ 情報が多く手に入り、流行がつかみやすい
- ・ 近隣や福島県と何らかのコラボの可能性

【脅威】

- ・ ICT や SNS の発達における情報提供や PR の競争激化

- ・多くの情報を得ることによる文化の崩壊
- ・流行に乗ることによる独自性の欠如

福島県の協力や住民性が若者に響くという強みもあるが一方で SNS 運営をする環境や知識がない。まずは、住民の方が DX についての抵抗をなくすことが求められる。

2. 高槻集落の観光・集客について

内部要因(S:強み, W:弱み)

【強み】

- ・自然が多く、星も美しい
- ・都会とは異なるゆったりした時間の流れ方
- ・外部の人を受け入れられる住民性
- ・民宿の運営をしているため宿泊客の受け入れが可能
- ・二本松市の Airbnb に登録されている建物が少ない
- ・四季のある気候

【弱み】

- ・大きな観光資源となるものがない
- ・SNS への遅れによる外部への情報発信力の弱さ
- ・若者のニーズを満たす場所の少なさ
- ・若者のニーズを掴めない可能性
- ・認知度の低さ
- ・交通の便の悪さ

外部要因(O 機会, T 脅威)

【機会】

- ・コロナの影響で自然や帰省先のような落ち着きがある場所に行きたいというニーズ
- ・コロナ禍での Airbnb 利用率の増加
- ・集落再生のモデル
- ・Airbnb の利用者の半数が 20 代の若年層であり、若者を呼び込みたい集落にとって良い宣伝になる
- ・若者の農業への関心の高まり

【脅威】

- ・似たような集落がいくらでもある

- ・田舎への移住など人気の高い田舎はどれも住みやすく
- ・程よい田舎であるため、住みにくい田舎は
- ・あまり興味を持たれない
- ・高齢者が多く、若者に抵抗を持たれる可能性
- ・観光地域づくりに積極的に取り組む他地域との競争激化
- ・高齢化による高槻の衰退、存続の危機により持続可能な
- ・観光が難しい

3. 高槻集落の農作物と販路について

内部要因(S:強み, W:弱み)

【強み】

- ・ほぼ自給自足で、様々な野菜が育つ
- ・新しいものを育てることにも抵抗がない
- ・必要な器具・機械が揃っている
- ・野菜の美味しい食べ方まで知っている
- ・野菜のお裾分けなど、農作物によって地域交流も行われている
- ・作れないと言われた野菜でも改良を重ね作ることができる

【弱み】

- ・桑園の山林化
- ・高齢化の加速
- ・他の県との差別化がない
- ・大量生産が難しい
- ・ブランド力がない
- ・高齢者が多いため、後継者を作らない限り継続的に活動することが難しい

外部要因(O 機会, T 脅威)

【機会】

- ・集落再生のモデルになれば宣伝になる
- ・道の駅で野菜などの販売ができる
- ・黒ウーロン茶やとうもろこしのひげ茶などダイエットや美容効果のあるお茶の人気加速

- ・コロナによる健康志向の促進
- ・スーパーの野菜の高騰で他より安く販売できる
- ・無農薬栽培への注目
- ・地元産をコンセプトにしたお店の増加・注目の高まり

【脅威】

- ・農業の衰退による、専業農家の減少
- ・JA よりスーパーの方が身近である
- ・人手不足による地域の生産力低下
- ・近年の異常気象の深刻化
- ・イノシシ
- ・コロナによる飲食業の不振

7, 活性化策案

私たちが解決できる高槻集落の3つの方向性についてのSWOT分析の結果を踏まえ、以下の集落活性化案を提案する。

7-1 インターネット勉強会及びホームページの作成

7-1-1 背景

今回集落に訪問する前、インターネットを利用して事前調査を行った。「高槻」と検索した結果、表示されたのは大阪府の高槻市や福島県二本松市の太田高槻だ。現代は、高度情報化社会であり、情報は発信するものとなっている。高槻集落は様々な問題を抱えているが、その多くが情報発信の強化によって1歩前進できると考える。集落の方にSNSの運用を提言したところ、インターネットに関する知識が乏しく運用は難しいと返答を頂いた。しかし、若者にとってSNSは重要な情報ツールであり、その影響力は大きく、集落の未来を担う人材に繋がる架け橋となる。そのため、集落の方が自ら運用し、継続的情報発信を行う体制を構築しなければならない。

7-1-2 提案内容

インターネット勉強会の開催を提案する。頻度は2~3ヶ月に1回、高槻集落で行う。指導係として桜美林大学の学生を派遣。インターネットの基本的な利用方法から効果的な情報発信の方法まで、段階を踏んで講習を行う。最終目標は、ホームページ作成サイトを利用した公式ホームページの作成と運営、複数のSNSアカウントの作成と運営とする。集落の方が自ら情報更新が出来るまで指導を続ける。また、集落の方のインターネットの基本知識習得によりオンラインで開催が可能になると考えられる。勉強会の開催頻度増加に繋がる。

表1：インターネット勉強会カリキュラム（案）

インターネット勉強会カリキュラム（案） 場所：高槻集落集会所 時間：各回2～3時間	
第一回	大学生メンバーと集落の方の顔合わせと基礎講座 <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンの使い方 ・アプリのインストール方法 ・スマートフォンを使いやすくするアプリの紹介 ・スマートフォン、インターネットを使う上での注意事項
第二回	パソコンの使い方 <ul style="list-style-type: none"> ・web ブラウザの選び方 ・検索方法 ・検索結果の情報の選び方 ・様々な HP の閲覧をし、集落のサイトのイメージづくり
第三回	集落のホームページの発案 <ul style="list-style-type: none"> ・無料のホームページ作成ツールから1つ選んでもらう ・ホームページに必要な情報の洗い出し ・ホームページに載せる情報をまとめる ・ホームページのデザイン決め
第四回	高槻集落ホームページ作成 <ul style="list-style-type: none"> ・集落の情報や写真の掲載作業 ・ホームページの運営における留意点 ・ホームページの理想の運営方法
第五回	ホームページ運営の経過報告 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのアクセス者確認 ・増やす項目はないか ・住民ブログなどの運営は可能かどうか ・その他 SNS を始めたい気持ちがあるか

出所：筆者ら作成

7-1-3 効果

まず、SNS の運用により知名度が上がる。そこで、「高槻」に興味を持った人がインターネットで検索をすれば、ホームページで集落の正確な情報を得ることができる。また、様々なコンテンツを用意しておくことで新たな魅力を伝えることができる。継続的に学生との交流が実現できるため、若者の視点を加味した運用が可能。以下、現在集落が抱えている問題に与える効果について示す。

集落で1番の問題は、高齢化及び少子高齢化である。集落機能が低下し維持が難しくなり集落が消えてしまう、伝統文化である「神楽」の後継者不足により伝統文化も同時に失われてしまう可能性がある。SNS運用により知名度が上がれば、集落に若者を呼び込む機会が増加。ホームページ運用により、農家民泊の情報や集落の空き家の情報を提示することが可能になり、観光客や移住者を募集することができる。コロナ禍で農産物の販売先がなくなったことによる収入減少も問題としてあがっていたが、SNSやホームページにおける呼びかけで新たな販売先が見つかる可能性がある。

7-1-4 問題点

SNS運用とホームページ作成が与える影響が大きいことは確かだが、地域住民の協力が必須条件となる。何も分からない状態から自分たちで運営が可能になるまでは時間も労力もかかる。また、地域の若者は集落復興に協力的ではないとの話もあった。集落の方の理解とやる気が鍵となる提案だ。

7-2 空き家を Airbnb に登録する

7-2-1 背景

高槻集落を訪問した際、現在空き家が3件あり移住希望者もおらず困っていることを知った。集落の方々は温かい人が多く、移住者を受け入れる気持ちも整っている。しかし、高槻集落に空き家があり移住者を求めていることを知ってもらいきっかけもなく、空き家が放置されている状態になってしまっている。そこで、空き家を活用し高槻集落に実際に来て知ってもらいきっかけを作ることが、移住者を見つけるための第一歩である。

7-2-2 提案内容

空き家を Airbnb に登録にすることを提案する。Airbnb に登録することで、空き部屋を貸したい高塚集落（ホスト）と高塚集落に興味を持っている人（ゲスト）をマッチングすることができる。また、三軒ある空き家全てで観光客を受け入れることのできる状態にできれば分散型ホテルという形にすることも可能である。農家民宿で現地の人と密接な関わりを持つのは抵抗がある人でも利用しやすく、今ある民宿をロビーやフロントにあたるものとし、ホテルのレストランとして民宿で夕飯をとる形にすることで実現が可能である。オプションとして農業体験などをつけることで希望者との交流の機会を設けることもできる。

7-2-3 効果

まず、移住者が見つかるまでの間にも空き家に価値を発生させる事ができる。学生グループで広い場所を安価に借りたい人や、周辺に旅行に来ており田舎暮らしを体験したい人などにニーズがあり、鍵の受け渡しなどを通し集落の方と関わる機会や住民の方の生活が垣間見えることで、高塚集落に魅力を感じるリピーターが出てくることも予想できる。Airbnb を利用することで、ゲストが実際に高塚集落に宿泊し田舎暮らしの疑似体験をすることができ、移住の実感を沸かせることにも有効である。Airbnb 利用者の半数が 20 代の若年層であり、この後に述べる竹のライトアップなどを空き家の回りに置くことは、若年層の利用の加速にも繋がる。

7-2-4 問題点

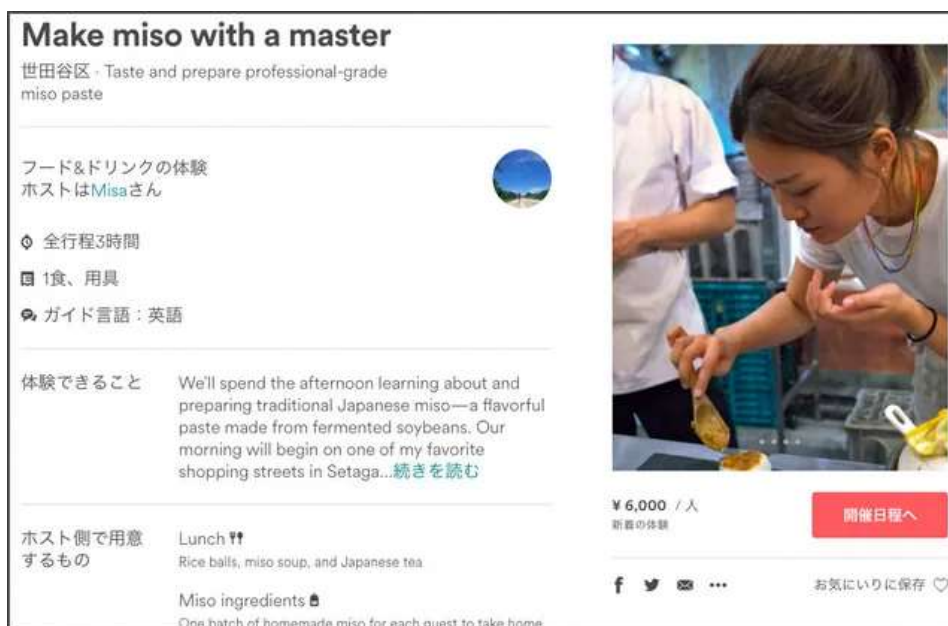
現在、空き家がすぐに貸し出すことができる状態かどうかの問題点である。ゲストに滞在してもらうためには、受け入れる環境を整えなければいけない。また、維持管理を行わなければいけないため、その担当を誰がしていくのかも考える必要がある。ゲストに快適に過ごしてもらうための空き家の維持と環境を整える点を配慮しなければいけない提案である。

7-2-5 特徴のある Airbnb の例

若者の観光のニーズやスタイルが多岐にわたる中、Airbnb はそんな様々なケースに合わせて活用することができる。また、近年の新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、人との接触が避けられているため、非接触で宿泊できる点や、プライバシーを確保しながら思い出を作ることができる点で需要が高くなっている。

① Make miso with a master

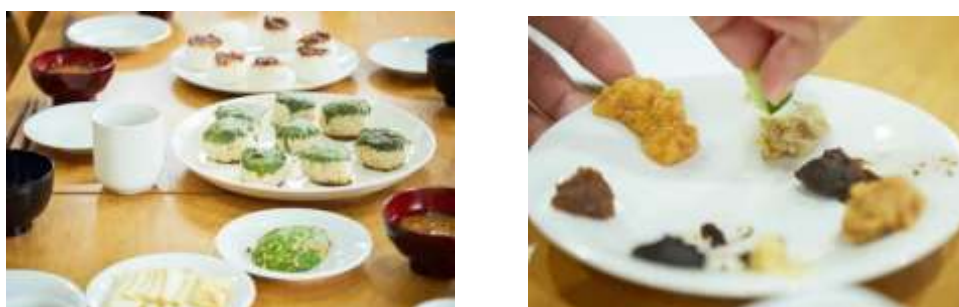
図 6 : Make miso with a master



出所 : TABI LABO <https://tabi-labo.com/283966/airbnb-experiences> (2月28日)

宮城県・カネサオーガニック味噌工房をご家族で営んでいる、安部美佐さんの体験「**Make miso with a master**」。カネサが育てた有機米・有機大豆を原材料に使った手づくり味噌キットで、自分で味噌を作ることができる。所要時間は3時間。費用は一人当たり6000円で、昼食には味噌おにぎりを食べることができる。まずは味噌そのものへの理解を深めてほしいと、座学からスタート。手作りのプリントを使いながら、普段食べているだけではわからない味噌の世界を学んだ後、味噌作り体験を行う。

図 7 : Make miso with a master



出所 : TABI LABO <https://tabi-labo.com/283966/airbnb-experiences> (2月28日)

高槻集落では、農業体験をして自分で採った野菜を住民のお母さんに教えていただきながら、ゆず巻き、ゆず味噌、白菜漬けを一緒に作った。高槻集落では農業体験や郷土料理づくり体験、その他貴重な体験がたくさんできるため、お客様に空き家への宿泊+αでこれらの体験を提供することで、特別な思い出を作りたい若者が集まるのではないかと考える。

② ゲストハウスわとやシェアルーム

図8：ゲストハウスわとや



出所：Airbnb ホームページ

https://www.airbnb.jp/rooms/7358369/reviews?source_impression_id=p3_1645608094_O%2BCSSyEImd0dtCnB

(アクセス日：2022年2月28日)

昔ながらの味わいに遊び心を加えながら大正時代に建てられた古民家を再生してゲストハウスとして提供されている。現代減少しつつありなかなか宿泊することができない古民家に宿泊することができ、田んぼや美しい川、滝に囲まれているため自然を満喫することができる。「わとや」のコンセプトは、「あなたにとって・・・自分の田舎であり、自分に戻る場所、繋がりのある場所、出会いのある場所であって欲しい」だ。都会では感じるができない、ゆったりとした時間、自由な時間を、快適な時間、そして昔ながらの日本の暮らしを楽しむことができる。宿泊費には2食分の食材費が含まれ、宿泊する人が自炊する形を提案する。

図9：ゲストハウスわとや



出所：Airbnb ホームページ

https://www.airbnb.jp/rooms/7358369/reviews?source_impression_id=p3_1645608094_O%2BCSSyEImd0dtCnB

(アクセス日：2022年2月28日)

高槻集落の特徴として、自然環境が良く、空気が非常に美味しい、そして夕方には夕日が、夜には星空が綺麗に見える。また、人があまりおらず交通量も少ないため、時間の流れがゆっくりしているように感じる。その点においてこの古民家は高槻集落に似ているところが多い。さらに、コロナウイルスの影響で実家に帰りたくても帰れない人が増加しているというデータもある。(これに関しては近場からの集客) 普段都会で生活している人が非日常を体験する、あるいはなかなか帰省できない人が近場・福島で実家に帰ったような気分には十分であると考えられる。

7-2-6 女子大生目線の魅力的な Airbnb

私たち女子大学生の目線から Airbnb でこんな機能や設備があったら泊まりたいと思うものを表にする。

表 2：女子大学生目線の魅力的な Airbnb

家具・インテリア	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンモック ・掘りごたつ ・自然を感じられる内装 ・壁にネオン管の装飾 ・囲炉裏とか古民家っぽい雰囲気にあったものがある ・ダンスの練習ができる大きな鏡 ・オシャレな家具や一貫性のある小物
設備	<ul style="list-style-type: none"> ・水周りが綺麗 ・Wi-Fiが早い ・テレビの画面が大きい ・BBQキット ・ストーブ ・プラネタリウム機 ・ルームアロマ ・プロジェクター備え付け ・Switchなどが備え付けてある ・ヘアアイロンやドライヤーがよいもの ・大人数で使えるパウダールーム
構造	<ul style="list-style-type: none"> ・星観察ができる窓 ・特別感のある屋根裏
サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・福島のものを使ったアメニティ ・冷蔵庫にウェルカムドリンクのワインやゼリーなど ・パウダールーム付きでデパコスが使える ・部屋の雰囲気にあったパジャマの貸し出し
体験	<ul style="list-style-type: none"> ・交流体験(農業体験、柚子巻き作りなど)

出所：筆者ら作成

これらの要素を備えて Airbnb に登録すればこの設備があるなら泊まりたいというニーズを満たし、利用者の増加が見込める。集落の方と実現可能なものを探っていきたい。

7-3 竹のライトアップ作成及び竹パウダーの販売

7-3-1 背景

現在、高槻集落が抱える問題として「竹の成長が早く、処理をしきれず住民の負担になっていること」があげられる。今回提案する二つの解決策によりこの問題が解決されると考える。

ここからはそれぞれの解決策について説明をしていく。

7-3-2 竹のライトアップの作成

まず竹のライトアップ作成についてである。短く切った竹の中に電子キャンドルを入れただけのキャンドルを並べるだけで、図のように簡単な映えスポットを作ることができるのである。図 10 のように平面に並べるだけでなく、山の傾斜を活かし斜面に並べるなど、映えさせ方は様々であり、簡単に集落の景観をよくすることができる。

図 10：竹を使ったライトアップの様子



出所：RETRIP ホームページ（アクセス日：2022 年 2 月 28 日）

また、図 11 のように、キャンドルとなる竹に切れ込みを入れ模様を作り、竹キャンドルの変化を楽しんでもらうこともできる。集落にこのような映えスポットがあることで、新たな集落の魅力を伝えることができ、Instagram などの SNS に写真投稿をしてもらえば集落の宣伝にも繋がるのだ。様々な種類の竹キャンドルがあることで、観光客など見る人々も飽きることなくライトアップを楽しむことができ、より SNS に投稿したいという気持ちが強まるのではないだろうか。

図 11：三重県津市「そうぶんの竹あかり」の様子



出所：東海カメラマップホームページ(アクセス日 2022年2月28日)

竹を使ったライトアップは上記のようなもの以外にも様々なものがある。竹の特徴である「しなやかさ」を活かし、図 12 のような竹のミラーボールを作成することも可能だ。竹のミラーボールは、竹を細長く切ったものを何本も用意し、丸いボールのように形を形成して、中に豆電球など小さなライトをいれるだけで完成する。このライトアップは、写真のように竹林に設置することで、幻想的な雰囲気 연출 することができる。また、竹林も活用するため、むやみに竹を伐採し、自然を失うことも避けられる。自然の素材だけで作られた、自然を守るイルミネーションなのだ。

図 12：竹のミラーボールでライトアップされた竹林の様子



出所：下野新聞ホームページ

7-3-2 効果

これらのライトアップの作成の効果としては集落の景観の向上や暗い夜道のライトアップの役割、映えスポットとしての集客効果、周辺地域への話題性、農家民宿や道の駅などでの体験材料の増加が挙げられる。集落全体を竹のライトアップで装飾すれば訪問者の増加が見込める。

7-3-4 問題点

竹のライトアップの置き場所の確保、また、ライトアップの管理をどのように行っていくかがあげられる。竹のライトアップは比較的実行しやすく、集落の宣伝としても効果的な活動であると考えられる。

7-3-5 竹パウダーの作成

これまでは、竹のライトアップ作成として集落に余る竹の解決策を提案してきたが、集落に生える竹は非常に多く、すべての竹をライトアップに活用することは難しい。

そこで提案するのが二つ目の解決策である「竹パウダーの販売」である。竹パウダーとは竹専用の粉砕機で粉状にしたもののことである。竹パウダーは製造後すぐに密封し嫌気状態にすると乳酸菌が増え、土壌改良材などとして使うことができるのだ。乳酸菌の力により、野菜の甘みや葉物の育ちがよくなり、養鶏用の飼料として使うと、免疫力の増加効果や鶏卵の a トコフェロールの増加などが見込めるのである。余った竹を竹パウダーとして販売することで農業に貢献すると同時に竹の処理問題も解決することができる。

他にも集落で育てている野菜を丈夫にしたり、竹パウダーの量が多く確保できれば、道の駅での販売や、家庭菜園をしている人や農家に向けてネット上で販売することで集落の利益獲得に繋げることもできるのだ。

7-3-6 問題点

竹パウダー製造のための竹の粉砕機が 58 万円と高額であり、初期投資が必要となることが考えられる。そして、竹パウダーを販売するとなると、竹パウダーの作成、販売、梱包作業など人員と時間、活動場所が必要になることが問題となる。

7-4 野菜のパッケージ提案

農作物の販売促進として道の駅で販売する高槻集落の野菜のパッケージを学生がデザインしたものを使用して、野菜の販売ポップの作成や SNS での宣伝を行う。若い人が手に取りやすいように、同じ野菜の中でも目を引くパッケージを作成することは販売促進につながる。

7-5 集落からの反応

集落の方に、今回の活動内容と提案する3つの案をまとめた書類を送り、返答をいただいた。区長や役員で「高槻集落における住む人々の心の活性化」、「集落（村）の活性化」、「経済の活性化」の3つを目標に検討した内容が以下の通りである。

・インターネット勉強会及びホームページの作成について

前例のない取り組みだが、3つの活性化を図る為、高槻集落の知名度を上げる為に是非お願いしたい。

・空き家を Airbnb に登録する案について

空き家の活性化を図るには良い提案。犯罪防止や事件事故防止のため配慮が必要。一方で、空き家所有者の理解を得て了承していただく必要がある。空き家に灯がともることは良い。

・竹のライトアップ作成と竹パウダーの販売について

① 「竹のライトアップ作成」

資源の活用の観点や民宿のおもてなしの心が表現できるので期待できる。デザインは学生とともに検討していきたい。

② 「竹パウダーの販売」

問題は粉碎機にかかる費用だが、福島県の補助金を期待したい。あわせて、竹パウダーの効用研究が必要。福島県の埴町は竹パウダーの活用に取り組み、東和町は果樹園で製造している、販売できれば経済の活性化にも繋がる。

上記3つ以外の提案である「農産物のスイーツの販売戦略」についても是非実現させたい。また、人を呼ぶには魅力の創出が必要であると意見があった。例えば、森林の公園や花の団地、高槻の名物料理など。加えて、コミュニケーションの場をつくること、来訪者の交流拠点の整備とイベント開催。農産物の販売手段として、自動販売機の設置で近隣町場の人をターゲットに野菜提供。星見ツアー、蛍観賞ツアーなど多くの案があった。提案に上がっていれば、県の予算が付く可能性がある。

集落の方と意見交換をする事で、自分たちでは考慮することができなかった点や新しい切り口を見つけることができた。集落に関わる方に ICT の重要性を理解し、勉強会という新たな取り組みに賛同して頂けた。来年度の活動に引き継ぐことになるが、集落とのコミュニケーションを継続し、協力して地域復興を継続していきたい。

8, 最後に

今回のプロジェクトに参加させていただいたことで、我がゼミで力を入れている「観光による地域活性化」の難しさを身をもって感じる事ができた。

これまでの我がゼミのプロジェクト活動では、知名度のある地域のツアープランニングを学んできたが、高槻集落のように一から地域を発信するのは初めての取り組みだった。我々Z世代には当たり前であるインターネット利用が現地では遅れていること、神楽の継承が問題となっていることなど、この活動がなければ知ることもできなかった沢山のことを新たに学ぶ事ができた。

事前調査と現地調査を終えた現時点では我々の集落への印象は大きく変わり、これほどにも温かく素敵な場所が存在することに驚くとともに、高槻集落を活性化させ守り続けていきたいと強く感じた。

我々の提案が高槻集落の発展へと繋がり、高槻集落に貢献できればと願っている。

9. 参考文献

- ・「福島県ホームページ」 <https://www.pref.fukushima.lg.jp> (2022年2月18日閲覧)
- ・「まるっと東和」 <https://marutto-towa.com> (2022年2月21日閲覧)
- ・「TABI LABO」 <https://tabi-labo.com/283966/airbnb-experiences> (2022年2月28日閲覧)
- ・「Airbnb」 <https://www.airbnb.jp> (2022年2月28日閲覧)
- ・「RETRIP」 <https://retrip.jp> (2022年3月1日閲覧)
- ・「東海カメラマップ」 <https://tokai-camera.com> (2022年3月1日閲覧)
- ・「下野新聞」 <https://www.shimotsuke.co.jp> (2022年3月1日閲覧)
- ・「NPO 法人竹もりの里」 http://takemori.org/?page_id=143 (2022年2月26日閲覧)
- ・「道の駅ふくしま東和」 <https://touwanosato.net> (2022年2月26日閲覧)